

学生寮へ入寮される学生および保護者の皆様へ

髄膜炎菌感染症について（お知らせ）

信州大学総合健康安全センター長

森田 洋

髄膜炎菌は、健康な人も持っている細菌で、誰でも感染する可能性があります。

2017年7月、神奈川県横須賀市の全寮制学校で侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）の集団感染が発生し、発症した10代の男子学生1名が死亡した事例がありました。

髄膜炎はワクチン接種で予防できる病気です。

本学では、寮などでの集団生活を送る学生が、ワクチン接種推奨対象者となっていることを受け、寮生および保護者に情報をお知らせすることといたしました。

つきましては、裏面に資料を掲載しておりますのでご覧ください。

予防接種そのものは、任意の予防接種であり、大学では取り扱っておりません。

各ご家庭で検討され医療機関でご相談いただきますようお願いいたします。

また、併せて入寮前に予防接種歴を母子健康手帳およびワクチン接種証明書で確認して、未接種の場合は追加接種を行うようお勧めいたします。

（保険診療外、医療機関ごとに値段がちがいます。）

- ・麻しん風しん混合ワクチン（MR） 定期 2回
- ・水痘（みずぼうそう）ワクチン 任意 2回
- ・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチン 任意 2回
- ・新型コロナウイルスワクチン 臨時 2回，追加 1回以上

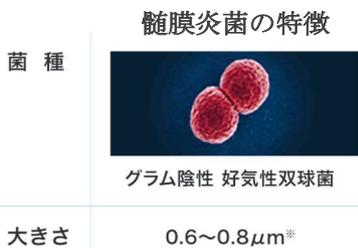
信州大学総合健康安全センター

電話 0263-37-2157

髄膜炎菌ってなに？

髄膜炎菌は、まわりを莢膜(きょうまく)という厚い膜に覆われた細菌で、ヒトの免疫機能によって排除されにくく、体内で増殖しやすい特徴があります。莢膜を持つ細菌には、他に Hib(インフルエンザ菌 b 型) や肺炎球菌などがあります。

髄膜炎菌は健康な人の鼻やのどの粘膜に存在しています。人から人へ咳やくしゃみによってうつり、鼻・のど・気管の粘膜などに感染します。



どんな人が感染しやすいの？

0~4歳の乳幼児と10代後半に発症のピークがあります。日本国内の報告によると、侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)は0~4歳の乳幼児と10代後半の思春期の発症数が多いことがわかっています。

なぜ10代後半での感染が多いの？

髄膜炎菌感染症は、人と人が近い距離で長い時間集まる場所で感染が広まりやすく、例えば学生寮、クラブ活動での合宿など狭い空間での共同生活で感染リスクが高まると考えられます。

髄膜炎菌感染症の感染リスク例



侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)の特徴は、「気づきにくい」「進行が早い」「死亡率が高い」ことです。

1. はじめの症状が風邪に似ているので、自分で判断しにくい。

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)は、最初は発熱、頭痛、吐き気などの軽い症状なので病気の判断がしづらく、「風邪かな?」と軽く考えてしまいがちです。そのため、病気の早い段階で治療を受けることが難しいとされています。

2. 症状の進みが早く、たった1-2日で命に関わる状態になってしまう

世界保健機関(WHO)は、侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)の治療を行わない場合、50%が死亡すると報告しています。適切な治療を受けた場合でも、発症後24~48時間以内に5~10%の患者が死に至ります。

3. 後遺症が残る確率が高い。

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)は、早く気づいて適切な治療を受けて回復した場合でも11~19%の割合で壞疽により手足を切断したり、耳が聞こえにくくなったり、言語障害や知能障害などの後遺症が残ってしまうことが報告されています。

重症な IMD の典型的な症状と発現時期



侵襲性髄膜炎菌による感染症は、ワクチンを打っておくことで予防することができます。

髄膜炎菌による感染症は、気づくのが難しく、治療が遅れる可能性が高いため、ワクチンの接種によってあらかじめ予防しておくことが重要です。

一回ワクチンを接種すると、数年間は予防効果が続き、髄膜炎菌による感染症を抑えることができます。寮生活がスタートしてからしばらくは、環境の変化や慣れない集団生活によるストレスや疲れで免疫力が下がることも予想されます。

免疫力が低下した状態で多くの人が集まる環境にいと、感染症にかかる危険性がいっそう高まるので、ワクチンは寮生活がスタートする前に接種しておくことが効果的と考えられます。期待に満ちた新生活を、不安なくスタートさせるための準備のひとつとして、ワクチンの接種を検討しておきましょう。

(髄膜炎菌にはいくつかの血清群がありますが、日本で承認されている髄膜炎菌ワクチンはそのうち感染例の多いといわれる、A,C,Y,Wの4つの血清群に有用です)

ワクチンの接種は、学校の寮など集団生活を始める4週間前までに。まずは、かかりつけのお医者さんに相談してみましょう。

ワクチンは、注射を打ってからすぐに効果が出るわけではありません。体の中で、髄膜炎菌に対する抗体ができるまでには4週間程度かかります。また、ワクチンを取り寄せるのに時間がかかる場合もありますので、学校の寮など集団生活に入る日から逆算して、4週間前までには、かかりつけのお医者さんに相談するようにしましょう。

